



南信州いむす21 新たに9件登録証を交付

12月20日(火)南信州いむす21登録証が、新たに交付されました。今回交付されたのは、8事業所と1商店街です。



まちぐるみの活動～ GARDEN2

中央通りでは、まち全体をGARDEN'Sという名称に統一し、1丁目から4丁目まで、町内単位で南信州いむす21の取り組みに挑戦しています。取り組みの中心は廃棄物の共同分別。商店街に設けられた「エコハウス」に、それぞれの事業所からの廃棄物を共同で分別、回収しています。各店独自にエコ商品の販売に取り組みむなど、省資源の取り組みも進められています。

業界ぐるみの取り組み

飯田市の一般廃棄物の収集を行う事業所8社に対し、同じ日に登録証が交付されました。主な活動は「アイドリグストップなどのエコドライブ」「洗車時の水の節約」「エコオフィス」「運搬時に路上を自主的に清掃」「地域の美化活動に参加」など。仕事の内容は共通していますが、各事業所ごとに工夫した取り組みが見られます。

今回新たに登録された事業所は以下の通りです(敬称略：順不動)。(有)飯田美掃、片桐清掃事業所、福岡清掃事業所、飯田クリーン(有)、(有)カメヤマ、五十川商店、宮口屋事業所、(有)竹原運送店、GARDEN 2。

新たに3事業所が宣言

また、新たに3つの事業所が取り組み宣言を行いました。近藤マテリアル(株)、宮下板金工業(有)、(株)平田商会です。それぞれ研究会参加事業所の紹介によるものです。取り組みの輪は着実に広がっています。

2002.12.27日現在南信州いむす21の取組状況は取り組み宣言103件201事業所、登録57件143事業所となりました。

北海道から視察 南信州いむす21の

取り組み

12月21日(水)、北海道の総合建設コンサルタント会社、(株)ドーコンの視察を受け入れました。

(株)ドーコンでは業務を環境改善活動にまで広げることが目的に、組織を改編。環境分野を仕事として広げるためには、地域全体に環境改善の意識が広がることが必要。そういう視点から、地域版EMS南信州いむす21の取り組みに注目。今回の視察に至りました。

ISO14001自己宣言を

支えるもの

最初は飯田市役所。視察目的は、日本ではじめて行ったISO14001の自己適合宣言。市役所も一事業所として参加する研究会の存在が、自己宣言が自己満足に終わらない重要なしかけであることも説明しました。

研究会の歩み

続いて研究会事務局でもある多摩川精機を訪



問。研究会や南信州いむす21構築に至る工夫や苦労について意見交換。研究会が民主導、飯田市役所も一事業者として参加する異業種のネットワークの強みを説明。あわせて多摩川精機歴史館も見学。一事業所が歴史館という教育的な施設を維持運営する。この地域の学びの風土を実感しました。

循環型社会の実験

～はらぺこ米作り

最後は研究会事業所の(株)原鉄を訪問。環境事業部長、原利尋専務からお話を伺



いました。原鉄は10数年前より生ゴミ処理機の開発製造に着手。機械の販売にとどまらず、堆肥を活用し、米や野菜などの栽培と販売にも関わっています。「環境が商売として成り立つことはむずかしい。生ゴミ処理で終わらず、口にはいるまでの循環を実現することで、環境問題についての理解が広がる。行政にはこういう小さな取り組みを厚く支える姿勢がほしい」。視察にあ



わせて提供いただいた、はらぺこ米のおにぎりの味は格別でした。

穂積新城市長を迎え研修会 自己宣言4年目を記念

2006年1月23日。飯田市役所は日本の自治体ではじめてISO14001の自己適合宣言を行いました。



穂積新城市長

2006年1月23日(月)、自己適合宣言4年目を迎えることを記念した研修会を行います。

内容は穂積亮次新城市長と牧野光朗飯田市長による対談です。コーディネータは環境首都コンテストを主催するNGO環境市民代表の枚本育生さん。穂積市長は、奥三河の林業再生を目的とした「穂の国森づくりの会」にも参加。「環境と木材」という共著もあり、林業問題に造詣が深い方です。牧野飯田市長と環境問題を切り口に、これからの自治体のあり方に語り合っていただきます。

午後6時から、飯田市役所3階大会議室で行います。どなたでも参加できます。お誘いあつての参加、お待ちしております。

外断熱の普及へ ハンスエーク氏

飯田市長を表敬訪問

スウェーデンに無暖房住宅が誕生しました。

北欧という極寒の地で、人体や電気製品などが発する熱だけで暮らすことのできる家。

その極意は外断熱工法にあります。外気を遮断することで、夏は涼しく、冬は暖かい、井戸水のようなイメージでしょうか。

そんな工法を考え、世界に広げようとしているスウェーデンの建築家、ハンスエーク氏が11月15日、牧野飯田市長を表敬訪問しました。

11月14日に茅野市でNPO法人外断熱推進会議が主催した外断熱セミナーが行われました。セミナー講師としての来日です。

地球温暖化防止に有効な外断熱工法。地域への広がりが期待されます。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp

木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局

ic1267@city.iida.nagano.jp



ハンスエーク氏と



座談会 挑戦！環境首都への道 自己適合宣言

4年目を記念して開催

1月23日(月)午後6時より、飯田市役所3階で、穂積亮次新城市長を迎え、牧野飯田市長との座談会を行います。



穂積亮次
新城市長

す。テーマは「挑戦！環境首都への道」。平成15年1月23日、飯田市役所は日本の自治体ではじめてISO14001の自己宣言を行いました。第3者の認証によらず、このしくみを的確に運用するため、相互内部監査や環境審査員の配置など、地域ぐるみ環境ISO研究会の強い支援を受けながら、様々な仕掛けをつくりあげてきました。今回の座談会は自己適合宣言の日を記念し、外部から講師を招いた研修会として行います。

穂積新城市長を迎えて

穂積新城市長は昨年11月13日の市長選で初当選。現在53歳。旧鳳来町長として町の行財政改革に手腕を発揮。鳳来町、作手村と合併した新新城市の舵取り役を任せられたばかりですが、森林、林業分野に造詣が深い方です。南信濃、上2村と合併し、森林面積が71%から84%に増加した飯田市にとって、貴重な提言が期待されます。

穂積市長が就任前の1998年、NPO「穂の国森づくりの会」主催の講演、「ペーパー林業家の方言」から抜粋したものを以下、ご紹介します。

「私は...鳳来町で林業に携わり始めたものです。日本の森林資源の果たす役割は今後非常に大きなものになっていくだろうと考えていますので、それに応じた新たな経営方法を模索しているところですが...日本の森林の危機は、一部の途上国のそれのように、生活の貧困に追い立てられて毎年膨大な面積を焼畑で消失するといった状況とは異なり、嘗々として人工林をつくりあげて世界に類例のないほどの森林蓄積をもちながら、なおそれを多様な面で有効に利用し、再生産していくことのできない社会システムの貧困の側にこそ根源があると思います。...われわれに必要なのは、「森を救え」というだ

けのアプローチではなく、むしろ目の前の豊かな森林資源によっていかにして現在の行き詰まった社会システムを救い出していくことができるのか、より豊かな社会構想を描く事業の中にいかにして山林の活用を組み込んでいくことができるのか、という視点なのではないかと思えます。...都会の人間関係からの逃避の場として...森がそういう「癒し」の場を提供することそのものは否定しませんが、しかしそのレベルの「環境思想」はそろそろ時代の後景へと退こうとしています。その意味で私は...自ら山林所有者になることも含めて、もっと山の中に遠慮なく入ってきて、「山側と町側」という今では殆ど意味のないハードルを踏み越えて、流域全体のシステムづくりのキーパーソンになれることを願っています。...」

環境市民すぎ本育生さんをコーディネータに迎え

両市長による座談会のコーディネータは、すぎ本育生さん。飯田市も参加する環境首都コンテストを主催するNGOの一つ「環境市民」の代表です。



すぎ本育生
さん

環境首都コンテストに対するすぎ本さんの思いが朝日21環境スクウェアに掲載されています。その抜粋をここにご紹介します。

「日本の社会は、「夢」を失っています。モノ豊かではあるけれど、未来に希望が抱けない、...このような社会を変えていくには...地域での実践を通さないと具体的な展開は望めないのではないのでしょうか。92年...地球サミット...において合意された「アジェンダ21」でも持続可能な社会をつくるには、地域社会が決定的な要素となるとされています。...環境首都という概念と言葉は、ドイツから90年代初頭に伝わりました。特に日本では「環境首都フライブルク」という形で、環境やまちづくりに取り組む人々を中心に有名になりました。...環境首都コンテストの意図は、自治体間により意味での競争を持ち込み、情報交換と切磋琢磨の中で、より環境に優れた自治体を具現化すること、そしてコンテスト質問票という形でNGOが、自治体に対して多様な政策提案を行い、自治

体とNGOの協働も生みだしていくことです。...毎回約80市区町村の勇氣ある参加を得て、...コンテストで提案した施策を実施されたり、先進事例を中心とした交流をされたり、さらにはいくつかの自治体の長が、将来の環境首都をめざすと宣言されるなど積極的な反応が起きています。...ところで日本の環境首都は、あらわれたのでしょうか。実は第1位イコール環境首都ではなく、クリアすべき点数を定めており、まだそこに達した自治体はありません。栄えある環境首都第1号はどのまちになるのか、皆さん楽しみにしてください。」

みなさんの参加を お待ちしております

04年度コンテストでは新城市が2位、飯田市が9位。環境首都をめざした両市トップの対談を通し、持続可能な地域社会づくりに向けた環境問題のこれからについて考えてみましょう。

多くの皆さんの参加、お待ちしております。参加を希望される方は、飯田市水道環境部環境課ISO推進係(担当:木下、小野寺)まで、

電話(0265-22-4511 内線5245)、

fax(0265-22-4673)、

e-mail ic1267@city.iida.nagano.jp

いずれかで「お名前」をお知らせください。



06年最初のぐるみ通信をお送りします。年頭こふさわしく、初日の出をとらえようと前日にポイントを決めてリハーサル。リハーサルでは南アルプスからくっきりと立ち上がる朝日をばっちり撮影できました。残念ながら、元旦はあいにく山に雲が。初日の出ではなく雲間の初日をお届けすることになりました。皆様方の06年が、雲から晴れた明るい年でありますこと、ご祈念申し上げます。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



H17 環境レポートが 公表されました

H16 年度、飯田市をめぐる環境の状況と施策をまとめた環境レポートがまとめられました。特徴をいくつかご紹介します。



地球温暖化ガスの 削減量は 4.6%

H17.2.16 発効した京都議定書で、日本は地球温暖化ガスを基準年である1990年の6%とすることを約束しました。飯田市はH16年10月に策定した「新エネルギー省エネルギー地域計画」で、10%の削減を目標としています。

今回のレポートでは、H15年時点の数値が集計され、基準年の735,000tに対し、701,128tと、33,872t、4.6%の減少となりました。

一方飯田市では、現在45%と推計される経済自立度を70%に高めるための取り組みが始まっています。経済活動が活発に行われる一方で、今まで以上に環境と経済を好循環させる取り組みに力を入れて、地球温暖化ガスの発生を抑制することが求められます。

その他 H22 年度を目標年度とした様々な取り組みがまとめられています。循環型の地域社会づくりに向けたごみ排出量の削減やリサイクル率の向上も目標達成に向けて順調に推移しています。

堆肥センター稼働

環境レポートには、特徴的な出来事として堆肥センターについても紹介されています。堆肥センターは下久堅地区に建設。H16年6月から稼働しています。この施設では、生ゴミや家畜の排泄物、きのこ廃培地などを堆肥化しています。初年度は1,214tの堆肥を生産。「ゆうき一番」と名付けられた堆肥づくりを通し、農地の地力を高め、循環型地域社会づくりを進める取り組みとして注目されています。

H17 環境レポートは近日中に飯田市のホームページで紹介予定です。
<http://www.city.iida.nagano.jp/kanky/plan/report.html>

次期基本構想の検討 市民参画で進行中

平成19年度にスタートする次期基本構想策定のための市民検討会議が進められています。

市民会議の構成は、公募委員を含め地域や市民活動に関わる市民41人と職員26人。高校生や地元大学生も参加していることが特徴です。



最年少参加者の中島君

昨年10月22日にスタート。これまで6回を重ねた会議では、グループにわかれて、基本構想がめざす都市像づくりを検討してきました。まずは3月までに、具体的な施策づくりを完了する予定です。

今回の構想づくりの大きな特徴は、徹底的な市民参加です。基本構想づくりで終わらずに、具体的な政策や、政策を実現するための施策づくりにも市民が参加します。そして行政の行動計画だけでなく、市民にとっての行動指針としても位置づけます。計画の進行管理にも市民が関わる予定です。

1月15日(日)に行われた第6回策定会議で、具体的な政策づくりが始まりました。政策づくりの段階からは、政策ごとに市民委員と庁内委員が別れた「政策班」と、関係課の職員が共同し、施策づくりに入ります。

議会提案の自治基本条例、地域自治組織づくり、土地利用計画など、飯田市の将来にとって大事なプロジェクトが同時に進められていますが、どれも市民参画が進められていることが共通しています。

市民検討会議はこれまで休日を原則に開いています。月2日の休日を返上して参加する市民の皆さんは誰も熱意があふれ、豊富なアイデアをもって参加しています。職員もそういう市民に影響を受けて積極的に取り組んでいます。

自然環境分野でも、地球資源の限界が明らかになった01世代らしい

施策がたくさん生まれていくことが期待されます。



講演会のお知らせ

1月28日(土)2つの講演会が行われます。それぞれ循環型社会づくりがテーマの講演会です。お誘いあつてご参加ください。

これからのイベントは リユース食器で

1月28日(土)午後1時30分から、リンゴ庁舎でリユース食器普及セミナーが行われます。主催はNPO法人グリーンクラブいだ。テーマは「使い捨て食器 NO! ~ リユース食器でゴミ減量化イベントを」。講師はNPO法人スペースふう理事長の永井寛子さんです。

大規模なイベントでは、多くの参加者を呼び込むために、飲食のサービスが行われます。そして大半は使い捨て食器が使われています。

イベント主催者と契約し、大量な食器の貸し出しと洗浄・滅菌・保管を行う。そして食器を使い終わったら、デポジット代を払って回収する。永井さんはリユース食器のレンタルシステムを全国で先駆けてはじめた方です。

大規模イベントを計画している自治体や市民活動の担当者の皆さんの参加をお待ちしています。

申し込み問い合わせはグリーンクラブいだまで。

Tel&fax 0265-56-8311

e-mail green-club@trust.ocn.jp

市民参加で 持続可能な地域づくり

1月28日(土)午前10時から、鼎公民館を会場に、龍谷大学教授の白石克孝さんを迎えた講演会を行います。テーマは「持続可能な地域づくりと市民参加」。飯田市の環境アドバイザーの研修会を公開で行います。

講師の白石さんは、環境首都コンテストを主催するNGO環境市民の理事もつとめ、市民の目線から地域づくりの現場で研究と実践を積み重ねています。海外の先進事例も交えたお話をうかがいます。

問い合わせは飯田市環境課環境政策係まで。

Tel 0265-22-4511(内線 5249)

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局
p05300@tanagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



阿智高校で授業！ 盟和産業の取り組み

1月13日(金)阿智村の県立阿智高等学校の2学年「環境科学基礎」コース選択の生徒42名を対象に、「ISO 14001を中心に企業としての環境への取り組み」と題した授業が行われました。

講師は研究会参加事業所、盟和産業株式会社長野工場、環境推進室長の福岡潤さんです。



真剣に聞き入る生徒たち

盟和産業の本社は神奈川県厚木市にあります。主な業務は自動車用部品や土木建材品の生産。最近では首都圏で不動産の販売も行っています。

長野工場は阿智村春日に立地しています。阿智高校とお隣同士ですが、ほとんどの生徒たちは、会社の内容や製品については知らなかったそうです。

そこで環境の取り組みを説明する前に、会社の活動内容や製品と、使用プラスチックについての説明を行いました。

その後、同社の環境マネジメントシステムを中心に、本題である環境への取り組みを紹介。

授業の最後に「地域ぐるみ環境ISO研究会」の活動も紹介いただきました。「行動が伴って初めて自覚したと言える」とまとめ、阿智村を基点とした環境保全の活動を盟和産業と阿智高校が中心になってやっけていこうと呼びかけました。

製品サンプルを持込んで説明したことで、生徒達は真剣に聞いてくれたそうです。

授業時間の余裕が生まれれば、次は工場見学を受け入れて、リサイクルの現状を見ていただくことも考えているそうです。

将来の担い手と結び、意義ある取り組みです。

50年後も住み続けられる 地域にするために ドイツツアー募集中

「魅力あるまちづくりの実際(ウルム市)」「粉挽き水車体験、農家訪問(ツバイテerland)」「スローライフとスローツーリズム(フライブルグ市)」「小都市ならではの観光(ハイデルベルク市)」、魅力的なメニューにあふれたツアーが募集中です。

テーマは「南ドイツの持続可能なツーリズムに学ぶ50年後の南信州を学ぶ旅」。主催は南信州広域連合、期日は3月7日(火)から14日(火)、参加費は240,000円です。

南信州は、国内では体験型観光、エコツーリズムなどの先進地として知られています。これらの新しい観光は、訪れる人たちだけでなく、受け入れる側にも感動を与え、経済的な効果も期待できます。そして将来にわたってこの地を愛し住み続ける人たちがいることで、持続可能な地域づくりに結びつきます。

50年後、100年後も自分たちの地域で暮らせるように。南ドイツバーデン＝ヴェルテンベルク州では、自分たちの地域にある文化や自然遺産を壊さず活用した、持続可能なツーリズムに取り組んでいます。

また、今回のツアーに先駆け、フリージャーナリストの池田憲昭さんを講師とした、事前学習会を行います。1月31日(火)6時30分から、地場産業振興センター会議室です。池田さんはドイツ・フライブルグ近郊在住。環境問題専門のジャーナリストで、今回のツアーの現地コーディネートをつとめます。

講演会はツアー参加者以外、どなたでも参加できます。ツアーと講演会についての問い合わせ申し込みは南信州広域連合まで。Tel 0265-53-7100 fax 0265-53-7155(担当:宮内、小川)。ツアーの第一次申し込み締め切りは2月2日(木)です。

講演会にはツアー参加者以外、どなたでも参加できます。ツアーと講演会についての問い合わせ申し込みは南信州広域連合まで。Tel 0265-53-7100 fax 0265-53-7155(担当:宮内、小川)。ツアーの第一次申し込み締め切りは2月2日(木)です。



体験教育
旅行より

聞いてほしい 55万匹の泣き声 よりあい交差点～起楽堂で 写真展

1日1,200頭。1年で45万匹。我が国で処分されるペットの数です。そのほとんどは飼い主の都合によるもの。せっかく授かった命を無駄にしないため、新しい飼い主を見つける活動をしている「ペットレスキュー マオ・ネット」。

保健所に預けられた犬猫に新しい飼い主を見つける。一時預かった犬猫の世話。自然災害などで被災したペットの援助。マオ・ネットの活動の一端です。

1月19日から2月中旬まで、飯田市役所地下の「よりあい交差点～起楽堂」で、マオ・ネットによるペットの写真展「ペットからのSOS」が行われています。写真展では捨てられたペットたちの様子や、新しい飼い主のもと、元気に育っている様子がお店いっぱいにかざられています。

「よりあい交差点～起楽堂」は、1997年12月にオープン。市役所職員有志の発意で市民と職員の交流の場としてスタート。喫茶を中心に運営しています。月曜日から金曜日の午前9時から午後4時半まで開店。どなたでも利用できます。コーヒーを飲みながら、生命の大切さについて考えてみませんか。

マオネットの連絡先は以下の通り。伊那市美すず 4034 Tel 090-9354-2211 fax 0265-73-7860。

新年を迎え、しばらく続いた暖冬から、再び寒さ厳しい毎日となってきました。お正月行事も一段落を終え、仕事モードも全開です。体調管理にはくれぐれも気をつけましょう。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp





持続可能な

地域社会づくりを 「挑戦！環境首都への道」 座談会を行いました

飯田市役所は、03年1月23日、日本の自治体でははじめて、ISO14001の適合を、第3者による認証から自己適合宣言に切り替えました。

自己適合宣言が自己満足に終わらず、透明性や客観性を担保するために、他の組織・自治体との相互内部監査、環境審査員の養成などさまざまなしくみを設けて取り組んでいます。

毎年1月23日には、自己適合宣言を記念した外部検証の日とし、外部の講師を招いた職員研修を行っています。これもしくみの一つです。



穂積亮次新城市長を招いた今回は、自治体の政策全体にどのように環境視点をもって取り組むか、牧野光朗飯田市長との対談を通し、自治体トップの思いを知ることを目的に開催しました。

1月23日(月)午後6時から開かれた座談会には、約200人が参加。市役所の職員だけでなく、多くの市民、市外からも新城、所沢、神戸などからの参加がありました。

コーディネータは環境市民・代表の枚本育生さんです。

環境首都コンテストとは

環境首都ということばは、ドイツで生まれました。深刻化している地球環境問題を解決し、持続可能な社会

をつくる。そのためには地域からの取り組みが不可欠。環境NGOが地方自治体に働きかけることを通し、自治体同士が切磋琢磨しながら持続



環境市民
枚本育生さん

可能な地域社会づくりを進めていく。1990年から9年間続いたドイツの取り組みを日本でも進めようと、全国11の環境NGOのネットワークが2001年から実施。枚本育生さんはこのコンテストのしかけ人です。

第4回目を迎えた2004年度、全国から75の自治体が参加。新城市は第2位、飯田市は第9位でした。1位は水俣市、しかし環境首都になるためには、主催者による総合評価が定めた点数の70%を超えることなどのハードルが設けられています。コンテストが始まってから現在まで、環境首都はまだ生まれていません。

「環境首都となるためには、持続可能な地域社会としての条件が広く整っていることが必要。環境政策に力を入れているだけではだめ。そこに人々が暮らし続けるための経済活動が根強く営まれていること。そして誰もが差別されることなく、暮らし続けることができるために社会的な公正が実現していることも大事な条件」「行政や行政職員だけががんばってはだめ。市民や事業所が自ら元気で、自治に参画していることが必要」。コーディネータの枚本さんのことばです。

希望都市・新城を目指して

穂積亮次新城市長は「所得格差だけではなく、希望格差を生まないうちづくり」をマニフェストの重点に据えて昨年11月、新城市長に当選。

「環境問題への取り組みと、地域の自治は密接に結びついている。環境マネジメントシステムも、新城市役所だけで取り組むのではなく、市民も加わり、新城市全体のマネジメントシステムとしていきたい。任期中に自治基本条例の制定を目指すことも含め、市民一人ひとり地域づくりの主人公となることが環境問題の解決のために必要な道筋」。市政運営の基本的な考え方を発言。「市の84%が森林という特性から、第1次産業として林業を考えるだけでなく、森林総合産業としてとらえ、環境消費型から環境育成型産業づくりを目指す」。特徴的な取り組みを紹介いただきました。



穂積亮次新城市長

文化経済自立都市という条件づくり

牧野光朗飯田市長は「飯田・南信州は豊かで文化の薫り高い地域。この地の魅力を未来につなげ、持続可能な地域社会を創るために取り組ん



牧野光朗飯田市長

でいるのが、文化経済自立都市。観光をプラットフォームに多産業が連携して魅力を発信し、飯田・南信州地域経済圏域をパワーアップしたい」。文化経済自立都市をマニフェストにした目的を説明。「環境問題は自治体だけの取り組みでは解決しない。広く地域が連携し、多くの市民に運動として広がることが必要。点から面へ、地域ぐるみの環境改善運動を進める地域ぐるみ環境 ISO 研究会の活動は、環境に取り組むモデルとなる活動」。研究会の活動に対するエールもいただきました。

流域、圏域の連携を

矢作川・天竜川などの水系、三遠南信という圏域など、広域的な連携も両市長の共通した考え方です。

市民による自治の力を高めること。環境政策と経済活動、社会的な公正がそろうて高まること。両市長の思いには共通点が多く、それらは環境首都を実現するためにも欠かせない視点です。

今回の座談会が、環境首都を目指した取り組みの一層のグレードアップにつながることを期待されます。

座談会終了後、午後8時から両市長、枚本さんを囲んだ交流会が行われました。所沢や新城からの参加者も交えた会も大いに盛り上がりしました。

また、現在飯田市では、第5次基本構想づくりにむけて、市民41人と職員30人による策定委員会が組織され、話し合いを積み重ねています。座談会の場にも多くの市民委員の顔がありました。

持続可能な地域社会づくりに向けて、大いに「これから」が期待される会となりました。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp





未来に自然豊かな地球を 残すために パチンコダイエーグループの 取り組みから

パチンコダイエーグループは、飯田市内7店舗、高森町1店舗のパチンコ店を経営しています。従業員数は約90名、内8割弱が20代のアルバイトスタッフです。



当グループでは以下のような環境改善活動を進めています。

「1.遊技機の適切な処理」年間当グループ全体で1,000台余の使用済み遊技機を排出しており、この遊技機の3R推進活動。

「2.環境関連法の順守」店舗の騒音対策や、店舗から出る汚水の対策、防犯・防火活動。

「3.電気の消費量削減」店内の温度管理、照明の点灯時間管理、空調機器フィルタの清掃管理。

「4.環境教育の実施」全従業員を対象とした環境講習や、毎日数回各店において実施する業務ミーティングでの環境教育の実施。これらの活動を中心として展開しています。

ISO14001の認証取得するまでに至ったこと、研究会に参加させて頂くようになったこと、どちらも従業員からの提案によるものでした。そして実際に環境改善活動を実施しているのもやはり従業員です。

地域ぐるみ環境ISO研究会の活動を通じ、環境改善活動は業種の垣根を越え、未来にこの自然豊かで美しい地球を残すための手段であることを改めて確認しました。今後、当グループのより充実したEMSの確立や、内外に向けた環境改善活動の展開、2004年2月に認証取得したISO9001とシステムの併合を目標とし、研究会の活動に参加していきたいと思っております。

パチンコダイエーグループは、業界ではじめてISO14001の登録認証を受けた組織です。研究会の一員であるとともに、業界の牽引役としても期待されています。

イベントではリユース食器を！ リユース食器普及セミナーが 行われました

使い捨て紙コップに対し、3回以上リユースコップを使用すれば、CO2排出量は削減。6回以上使用すれば、地球温暖化ガス全体の排出量や、製品化するためのエネルギーも減少します。



1月28日(土)NPO法人スペースふう理事長の永井寛子さんを迎えて、講演会「使い捨てNO！リユース食器でゴミ減量化を」が行われました。主催はNPO法人グリーンクラブいいた、共催は飯田市環境協議会です。

冒頭はスペースふうと山梨大学による共同研究の実証実験の結果です。

スペースふうは、女性の自己実現と社会参加を目的に1999年山梨県の増穂町に誕生。2002年11月スペースふうは、日本ではじめてリユース食器のレンタルシステムに取り組みました。

貸し出し用食器の金型を製作するためには膨大な経費がかかります。その問題を解決するために地元企業から広告収入の支援を受けています。イベント参加者が食器を返すときは100円のデポジット。イベント主催者は使用した食器を洗わずに返し、洗浄や消毒はスペースふうが行います。来シーズンからJ1に昇格するヴァンホーレ甲府のホームの試合ではビールカップが使われています。ビールやジュースのカップ、おわん、大皿小皿、コーヒー容器などの貸し出しを、これまでに延べ全国各地のイベントに、のべ70万個以上貸し出しました。

キャッチフレーズは「ワンウェイからリユースへ」。全国各地にスペースふうと同じ志を持つ人々を募り、ネットワークを広げながらリユース食器の輪を広げたい、講師の永井さんの願いです。自治体、公民館、地域づくりグループなどのイベント、事業所の福利厚生活動などで、飲食サービスは参加者を獲得するために有効。そんなときに、リユース食器を使ってみませんか。

お問い合わせ、照会はグリーンクラブいいたまで

<http://www.city.iida.nagano.jp/kankyosho/event/network/greenclub.htm>

自然エネ・省エネ 起業講座のお知らせ

ますます深刻になる地球温暖化問題。最近では原油価格が高騰。自然エネルギーへの期待が高まっています。一方、会社経営や家計のために省エネルギーに本気で取り組む動きも広がっています。

仕事として自然エネルギーや省エネルギーに取り組みたい。そんな思いを形にするための講座が行われます。主催はNPO法人南信州おひさま進歩、おひさま進歩エネルギー有限会社飯田市環境協議会が共催です。

エネルギーやコミュニティビジネスの分野で現在活躍中の有名講師陣による、充実した講座です。飯田哲也さんはNPO法人環境エネルギー政策研究所所長、自然エネルギー政策、市民風車やグリーン電力など日本の自然エネルギー市場の先駆者。

山口勝洋さんはグリーン証書を発行する(株)自然エネルギー・コム取締役、環境エネルギーが流通する新しいしくみづくりを進めています。

片岡勝さんは志を担保に融資を行う市民バンク代表。地域づくりとビジネスを結びつけたコミュニティビジネスの草分け。奥谷京子さんは女性の経済自立を支援するWWB/ジャパン事務局長。

地域外からも参加できるよう、宿泊もできる企画です。概要は以下の通りです。3月4日(土)「講演：自然エネルギー市場という新しいパラダイム(飯田哲也)」「ビジネスプランの立ち上げ方(奥谷京子)」3月5日(日)「現地見学」「市民出資の社会的な意義と方法(飯田哲也)」「法人格の選び方、助成金の活用方法(奥谷京子)」3月18日(土)「環境エネルギーの新しい事業モデル分析(山口勝洋)」「事業の採算点を知ろう～損益分岐点分析(奥谷京子)」3月19日(日)「起業を通じた自己実現(片岡勝)」「プラン発表＆ビジネスアドバイス」



お誘いあって参加してみませんか。申し込み、照会は以下HPまで。

<http://www.ohisama-energy.co.jp/>

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tanagawa-seiki.co.jp

木下巨一(飯田事務所) 研究会事務局

ic1267@city.iida.nagano.jp



時間をかけて 地道な取り組みを 「まちむら」で研究会が 紹介されました

「どこに勤めていても家に帰ればみんなな市民。環境改善が家庭レベルで伝われば、万を超える草の根になる。環境問題は『点』ではなく『面』で行うぐるみ運動。



自治会町内会情報誌「まちむら」06年1月号で地域ぐるみ環境 ISO 研究会が紹介されました。「まちむら」は財団法人あしたの日本を創る協会が発行。地域でがんばっている活動を掘り起こし、光をあてて、地域づくりの活動を支える活動を進めています。

情報誌の発行だけでなく、「ふるさとづくり賞」を設け、毎年市民や企業、自治体が進める先進的な活動を表彰しています。ちなみに05年度集団の部、内閣総理大臣賞は、NPO 法人宍塚の自然と歴史の会「里山をみんなのふるさととして未来へ受け継ぐ活動」でした。

南信州独自の EMS「南信州いいむす 21」の取り組み。全国に先駆けで行った ISO14001 規格改定の合同学習会。ノーマイカー通勤の取り組みなど、研究会の歴史や具体的な取り組みが紹介されています。

「目に見える大きな成果は生まれていない。環境改善行動は、もっと長い時間をかけてじっくり取り組む地道な挑戦」と活動の現状を分析。

「研究会の活動によって、参加事業所の交流が生まれ、地域にある事業所の連帯感が強まったこと」を大きな成果と評価。

「文化と経済の営みも、環境改善行動も終わりはなく、たえず継続しなければならぬ...研究会の活動も今後継続的に発展していくことが求められている」。研究会のこれからの取り組みにたいし、熱いエールをいただきました。

ふるさとづくり大賞、ぜひ挑戦してみたいですね。「まちむら」編集部から、掲載紙を20部贈呈いただきました。希望の方は研究会事務局までお申し出ください。

地域づくりの極意を学ぶ 南ドイツの 持続可能なツーリズムから EUの特徴的政策 Reader+

地域で発意し、取り組みを自分たちで評価する地縁組織から NPO、経済団体、自治体など地域の多様な組織が連携する



ボトムアップですすめる 行政区分にとらわれず、広域的に取り組む複数年の長期的な取り組みである多面的で次につながる取り組みとする 自己負担が原則でそこに助成を加える 活動が起きたあとの請求も受け付ける。

EU が国を超えて地域再生を支援するしくみ「リーダープラス」。日本の政府や自治体では、これまで考えられなかったような画期的な制度です。この取り組みを通して、ヨーロッパ各地でたくさんの方が活気を取り戻しはじめています。

1月31日(火)「南ドイツの持続可能なツーリズムに学ぶ」をテーマとした講演会が行われました。講師は池田憲昭さん。ドイツ・フライブルク在住のジャーナリストです。リーダーズプラスの活動にも参加する、ドイツ地域づくりの実践家でもあります。

3月7日(火)から14日(火)にかけて、南信州広域連合が主催するツアー「南ドイツの持続可能なツーリズムに学ぶ50年後の南信州」が行われます。池田さんは、ツアーの現地ガイド役で、参加者にとっての事前学習会も兼ねています。

スローシティの取り組みを

ローマに、あるファーストフード店が進出したとき、市民が皆で地元食材のスパゲッティを食べる運動からスタートしたといわれるスローフード運動。食べ物を注意深く「選び」「味わい」「学ぶ」。その考え方を地域づくりにまで広げたのがスローシティ運動。北イタリアで始まったこの運動は、南ドイツでも広がっています。

持続可能なツーリズムも「スロー」の視点で取り組まれています。歴史ある地域の歴史、文化、自然、景観そのものを残し活かす。人々のありのままの暮らしにじっくりふれる旅、宿泊を受け入れた農家の人たちにとって、訪れる旅人は自分たちを映す鏡。ある農民の一言。「私はこの辺り

で一番大きな景観管理人です」。

交流を通して自分たちの営みの意義や必要を改めて実感し、誇りにつなげる。南信州のツーリズム「南信州感動体験」と通じる取り組みです。

持続可能な地域社会づくりという共通の視点で、ツーリズムをはじめとして様々な地域づくりの取り組みが広がっている EU。ぜひ一度訪れてみたい現場です。

「食育のススメ」で 飯田の取り組みが 紹介されました

「あ、このおじさん知っているよ。」来てくれた生産者の顔を見て、「おいしいを」連発する子どもに驚き喜ぶ保育士や、「自分のつくったものを喜んで食べてくれる子どもたちの姿を見てうれしかった。」と生産者の笑顔がやさしい。飯田市内の各保育園で行われている「地元食材の日」。



「食育のススメ～信州の食育と地産地消(川辺書林)」で、飯田市の取り組みが紹介されました。

「子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身につけていくためには、何よりも「食」が重要である」。昨年7月15日に施行された食育基本法の一節です。地域の食材を旬な時期に食べる。食は、環境視点からも重要なテーマです。

小中学校で取り組まれている「学校給食 100%の日」「伝統料理の日」は、飯田から出発、県の事業として広がりました。一年の行事と行事食、その内容が一目でわかる「飯田の食ごよみ」。「伝えよう伝統料理・食ごよみ実践講座」「地元農産物をおいしく食べる加工塾」など、飯田市では「食」や「農」にこだわった、多様な取り組みが進められています。

「食育のススメ」では、長野県内で進められている、「食」を通じた子どもたちへの豊富な教育の取り組みが紹介されています。食育という視点、改めて考える機会として一度読んでみませんか。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



浅間テクノ ゼロエミッション推進委員会 研究会と交流

2月8日(水)浅間テクノポリス、ゼロエミッション推進研究会のメンバー18人が来飯、地域ぐるみ環境ISO研究会の有志と交流しました。



浅間テクノポリスは、長野テクノ財団の中核的な地域センターの一つ。長野テクノ財団は、研究開発事業を核として、産学官交流や人材育成などを支援する機関として2001年に設立されました。

21世紀に生き残る技術力を磨く。そのために環境問題は抜きにできません。

南信州いむす21などを異業種が共同して取り組んでいる地域ぐるみ環境ISO研究会の活動に着目。ゼロエミッション推進研究会との交流会が実現しました。

よりレベルの高い 排出者の責任 オムロン飯田の挑戦！



午前中は研究会参加事業所の2社と、交流会会場ともなった環境技術開発センターを視察。オムロン飯田では、会社として取り組むゼロエミッションについても報告いただきました。通常、産業廃棄物は、中間処理業者に引き渡し、そのことがマニフェストとして管理されていけばよしとされています。オムロン飯田では最終処分の現場まで出向き、間違いのない処理が行われていることを確認することで、排出者としてよりレベルの高い責任を果たそうとしています。その報告にたいして参加者一同感嘆。

ゼロエミッションの課題

ゼロエミッション推進委員会は、「廃液」「廃プラ」「紙」と廃棄物の分野を3つに分けて、共同の研究と取り組みを進めています。共同で多くの先進地を視察。事業所ごとに目標値を互いに公開しながら、ゼロエミッションの実現に向けた取り組みを進めています。紙などの一部で、共同回収にも取り組みはじめています。

地域ぐるみ環境ISO研究会からは、会の設立経過や南信州いむす21など、共同で進めている取り組みを紹介。温室効果ガスや廃棄物などの環境負荷物質の削減やリサイクルを考える「さくげん」分科会。かつて進めた研究会の取り組みも報告。

両研究会の設立経過や運営主旨には違いはありますが、研究会のこれからを考える上で意義ある交流会となりました。地域を超えた事業所の交流が一層広がることを願います。

ゼロエミッション研究会の皆さんの昼食は、下久堅榊野沢生産者組合がつくった「ひさかた御前」。地域でとれた農産物を地域で味わっていただく、域産域消の先駆けとなる取り組み。お昼も「環境」にこだわってみました。

注目される独自の取り組み 「笑う食卓」で紹介

「子どもたちは種もみから、田植え、稲刈り、脱穀など一連の農作業を体験。田んぼの感触を喜ぶ姿、苗にはなぜ根っこがあるの？」と疑問を投げかける子、稲が米になると知ったときの驚き…。日々変化する田んぼの中で、五感をフルに使って何かをつかんでいきます。そして秋には自分たちで作ったお米を炊き、じっくり味わうことで、あらためて食の大切さを学びます。」

料理研究家の服部幸應さんが編集する雑誌「笑う食卓」で、飯田の食育やエコツーリズムの取り組みが紹介されました。

田植えや稲刈りといった農作業の一部を体験するだけでは食育の本質をつかみきれない。飯田市の進める一貫型の稲作体験の意図するところです。

都会の子どもたちに生活体験を与えようと思ったグリーンツーリズムの取り組み。地元の子どものために次々に根付いてきました。



グリーン経済と 憲法に環境原則を入れる 意見交換会が行われます

グリーン経済とは、すべての活動に環境意識を持って取り組む経済活動。日本の経済全体をグリーン化しよう。NPO法人、環境文明21代表、加藤三郎さんたちの提案です。



2004年8月26日、飯田人形劇場でシンポジウム「エコタウン飯田で循環型社会を考える」が行われました。地域ぐるみ環境ISO研究会も主催団体の一員です。

加藤さんはこのシンポジウムの講師として来飯。環境省の初代地球環境部長をつとめ、1992年地球サミットでも日本を代表する立場で活躍。持続可能な地域社会づくりを目指した環境文明21の代表です。

「何人も、良好な環境を享受する権利を有するとともに、良好な環境を保持し、かつわれわれに続く世代にそれを引き継いでいく義務を有する」「国は、いかなる政策を企画し、実施する場合にあっても、良好な環境の維持及び改善に努めなければならない」。以上のような内容を環境原則として、憲法に盛り込もうという運動も進めています。

2月17日(金)午後1時から、大崎南部労働会館(東京都杉並区)を会場に、グリーン経済と、憲法に環境原則を盛り込むための意見交換会が開かれます。

グローバルな視点で環境について考えてみませんか。

詳しくは以下HPをご参照ください。

<http://www.neting.or.jp/eco/kanbu/>

「我がまちの憲法」、自治基本条例づくりの取り組みが全国各地で始まっています。飯田市は一味違い、議会提案型。もちろん市民参画でつくられました。2月15日から各地区に市議会議員が出向いた説明会を行います。飯田のまちづくりの大事なエポック。ぜひ参加しましょう。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局

ic1267@city.iida.nagano.jp



京都議定書発効1周年 みんなで取り組もう 地球温暖化防止活動

アンケート

昨年の2月16日、京都議定書が発効しました。今日はその一年目です。

発効後、取り組みは進んでいるでしょうか

1992年、ブラジルのリオデジャネイロで、「第1回地球サミット」が行われました。この会議には国連加盟国などから180カ国4万人を超える人たちが集まりました。



第1回地球サミットで採択された「アジェンダ21」は、地球環境問題を解決するための行動計画です。国内では「とよなかローカルアジェンダ21」などが知られています。地球環境問題を解決するのも、自分たちの住む地域から環境改善の活動を積み上げていくことが大事です。あらゆる国や地域でローカルアジェンダ21を進めていくことが求められています。

地球環境問題の中で何よりも早く取り組むことが必要な問題は温暖化の防止です。

第1回地球サミットで提案された「気候変動枠組み条約」は1994年3月に発効しました。その後この条約を、地球温暖化を防止する行動に結びつけるために、国際的な会議が何度も開かれています。とりわけ1997年12月に京都で行われた会議が、歴史的にも大きな節目となりました。

この会議では先進各国に二酸化炭素など地球温暖化ガスの削減を義務づける「京都議定書」が採択されました。これには国ごとに地球温暖化ガスの削減目標が定められています。ちなみに日本は1990年の地球温暖化ガス排出量に対して、2012年までに6%を削減することが求められています。2004年につくられた飯田市の省エネルギー

新エネルギー地域計画では、10%の削減を目標としています。

この京都議定書は2005年2月16日に発効しました。

豊かな自然を子孫に残すことは私たちの重要な責務です。

議定書が発効した2月16日を記念し、一人ひとりが地球温暖化防止に向けた取り組みを進めるきっかけとしませんか。

家庭でできる 10の温暖化防止アンケート

地域ぐるみ環境ISO研究会では、京都議定書発効1周年を記念して、「家庭でできる10の温暖化防止アンケート」を行います。

アンケートでは以下の設問に択一式で答えてください。

1. 冷房の温度を1度高く、暖房の温度を1度低くする。
2. 週2日、往復8kmの車の運転をやめる。
3. 一日5分のアイドリングストップを行う。
4. 待機電力を90%削減する。
5. シャワーを一日1分家族全員が減らす。
6. 風呂の残り湯を洗濯に使う。
7. ジャーの保温をやめる。
8. 家族全員が同じ部屋で団らんし、暖房と照明の利用を減らす。
9. 買い物袋を持ち歩き、省包装の商品を選ぶ。
10. 一日1時間テレビの利用を減らす。

アンケートに参加することを通して、皆さんの家庭生活を振り返り、温暖化防止に向けた行動に結びつけてみませんか。

研究会に参加する事業所に働く皆さんだけでなく、どなたでも参加できます。ご家族、お知り合いにもぜひ声をかけ、多くの方の参加をお待ちしています。

参加の方法

アンケートは、飯田市環境情報のHP

<http://www.city.iida.nagano.jp/kankyo/index.shtml>

または飯田市のHP

<http://www.city.iida.nagano.jp/index.shtml>

から開くことができます。

アンケートの期間は、2月16日から2月28日とします。

一人1回の参加ですが、同じコンピュータからでも、ご家族・知人・同僚の皆さんが複数参加することができます。

なお、このアンケートは、環境省の作成したパンフレット、「身近な地球温暖化対策～家庭でできる10の取り組み」を引用させていただきました。このアンケートの制作・発行は、(財)日本環境協会 全国地球温暖化防止推進センターです。センターのホームページでは身近でできる地球温暖化対策がたくさん紹介されています。詳しくは以下HPをご参照ください。

<http://www.jccca.org/find/action/>



センターホームページより

3月中に公表します

アンケートの集計結果は、期間終了後にとりまとめ、3月14日に行われる、研究会参加事業所代表者会で報告した後、ぐるみ通信などで公開します。

ぜひ多くの皆様にご協力をいただき、今回の取り組みが少しでも地球温暖化防止の行動につながることを期待しています。

身近でできる温暖化防止アンケート、試しに職場の仲間同士で答えてみました。私も含めてまだまだできていないこと、これからでもできそうなことなど、たくさんあることが見えてきました。ぜひご家族で楽しみながら、挑戦してみませんか。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局

ic1267@city.iida.nagano.jp



ケフィア・アグリ 鍋木武弥さんのお話から

「土にふれる仕事。そして流した汗はスポーツの汗とは違う。これが人間の仕事だと思いました」。2月13日(月)通信販売



で全国 60 万人の会員を持つケフィア・アグリ(株)代表取締役、鍋木武弥さんの講演会が行われました。

鍋木さんは 2004 年 9 月飯田市下久堅柿野沢地区に I ターン。農業を営みながら農産物の通信販売を行う会社を運営しています。冒頭は鍋木さんが学生時代、援農ツアーに参加して感じたことです。このことがきっかけとなり、「農」にこだわった生き方を歩むようになりました。

皆がつながっている 農村の自治力

鍋木さんは卒業後、農業関係の出版社に就職します。農業雑誌は、農村や農業技術、そして地域のことを知らなければ売れません。農村地域を歩きながら、農村社会の強さを感じたそうです。「道普請なんて都会ではできません。'屋号'からはその地域の歴史が見えてきます」。農村は閉鎖的といわれることもあります。けれども道普請のような活動はそこに住む人たちがつながっていなければできません。鍋木さんはそれを、閉鎖性ではなく「自治力」としてとらえました。

その後全国各地を巡りながら様々な地で農業を体験。2000 年から 2002 年、青年海外協力隊員として南米パラグアイで野菜作りの指導も行いました。パラグアイでは、家族の大切さを学んだそうです。

飯田には受け入れてくれる風土がある

30 代を迎える頃から、定住の地を探し始めた鍋木さん。I ターンの取り組みは全国各地で行われています。自然が豊か、空気がうまい、雑木林がある、川がきれい。そういう条件に合いそうな地域を歩きました。I

ターンの人たちを受け入れるためにお金や家を用意してくれる自治体も多いそうです。けれども飯田にはそういう制度はありません。

それでも飯田を選んだのは、自分を受け入れてくれる心地よい風土を感じたからです。自分の好きなことをやらせてくれる、そんな自分を認めてくれる人たちの存在。

夏の花火がそれぞれの地域で打ち上げられる。打ち上げる人と見る人が同じ、あるいは近い存在。植物の北限や南限が交錯する気候風土。

いろいろなものができる。いろいろな生き方ができるのが飯田の可能性ととらえています。

農業はカッコいい

自分のつくった農村物が相手のからだの一部になる。鍋木さんは農業を「カッコいい仕事」ととらえています。

「りんごの木はりんごの木なり」。青森のりんご農家を訪れたとき、その農家の先代たちが農業を通して感じた思いをいくつもの格言として書き残していました。土を食べるといっても信じられない体験。

農は、農業という仕事を超えて、人としての生き方を教えてくれる営みです。

ほれた気持ちを伝えることがマーケティング

ケフィア・アグリでは今、市田柿の注文が殺到しています。市田柿に会い、そしてそれを味わい、鍋木さんは大きな感動を受けました。色、つや、そしてその味覚、他の干し柿は食べられなくても市田柿だけは食べられるという人もいます。軒先に並んだ柿すだれの美しさ。鍋木さん自身が受けた感動を伝えることで、受けた相手も食べてみたくな



る。まず自分が惚れ込んで、その気持ちを相手に伝える。これがマーケティングです。

市田柿の受注は、飯田で地元の人たちが行っています。それは市田柿のことをよく知っているから。それは売り方の技術以上に必要なこと。通信販売の拠点を都会に置かず産地におく意味。

ケフィア・アグリ HP「かぶちゃん農園の市田柿」では市田柿の魅力がふんだんに紹介されています。



HP アドレスは以下の通りです。
<http://www.kefir-agri.jp/kaki/index.html>

農と飯田の可能性

参加者には農家の方も多くいました。農業の衰退、後継者不足といった全国的な傾向。飯田も同様です。

「見失いがちな農業の大事さを気づかせてくれる話だった。親としての自分がかっこよく農業をやっている、その背中を見て、子どもたちも育ってくれる。これからは機会をつくって話の続きをうかがいたい」。参加されたある農家の方の感想です。

無限で劣化しない地球に生きた99%の人類と、有限で劣化する地球に住んでいる1%の私たち。持続可能な地域社会づくりを目指して、私たちは新しい生き方、働き方をつくっていかねばなりません。

農業の可能性、飯田の可能性、新しい働き方、いろいろなことを気づかせていただく機会でした。

都市の若者たちと飯田を結ぶ活動を進めています。その取り組みの初期の頃、りんご農家のお手伝いをしていたとき、ある若者が「簡単な作業」というような一言を農家の方に発してしまったことがあります。

そのときの農家のお母さんの一言。「りんごの木と話ができるようになるまでには時間がかかるんだに」。それだけで私は頭を殴られたようなショック。農業の奥深さを感じることができました。

鍋木さんの話が、私自身の体験に重なりました。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局
p05300@tanagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



エコ企業ネットとところざわ設立 地域ぐるみ環境ISO研究会 からも参加

京都議定書の発効した2月16日(木)。この日を記念し、所沢市で「エコ企業ネットとところざわ」の発足記念総会が行われました。



所沢市内で事業を営む事業所が、環境をキーワードに業種の枠を超え、交流を進めながら、地域の環境改善に貢献する。エコ企業ネットとところざわの目的です。

発足時の会員事業所12社から担当者が参加した設立総会。総会終了後、地域ぐるみ環境ISO研究会の活動について報告する機会をいただきました。

研究会からは沢柳俊之(多摩川精機)、片桐義浩(飯田信用金庫)、遠山運、木下巨一(飯田市役所)の4名が参加し、研究会の活動や、活動に込めた思いをリレーで発表しました。

地域の活性化を環境から

山間の地、南信州は、農業だけでは食べていけない地域です。この地で生きていくために、先人たちは殖産産業を興してきました。水引、紡績、精密機械、その時々殖産産業がこの地域の文化をつくってきました。

銀行破綻や空洞化、平成不況を乗り越えるために環境を切り口に異業種が連携していこう。地域ぐるみ環境ISO研究会は誕生しました。

異業種が連携する意味

「環境関連法令セミナー」「ISO14001規格改定セミナー」など、一つの企業や別の関連組織が行う研修を研究会に公開する。研究会に参加することで、重要で新しい情報を共有できるしくみです。

事業所見学会は普段おつきあいのことのでない異業種の活動ぶりを

知るチャンス。里山での間伐作業、間伐材やドングリを使った工作教室は、子どもたちとのふれあいや、参加者自身の楽しみ。

参加することが事業所のプラスになる取り組みとする。参加者自身が楽しむことのできる場をつくる。研究会を続けるために大事にしていることです。

南信州いむす21、研究会と飯田市の自己適合宣言

2003年1月23日、飯田市役所は日本の自治体ではじめてISOの認証を、第3者によらずに自己適合宣言しました。

ISO14001の透明性や客観性を担保するためのしかけ。その一つが相互内部監査。地域ぐるみ環境ISOのメンバーは外部からの参加者の中心的存在。研究会あつての自己適合宣言です。

研究会の構築した南信州いむす21。現在グレードアップに向けて準備中。2004年改訂版、ISO14001の適合について、「自己宣言について組織外部の人またはグループによる確認を求める」という項目があります。南信州いむす21のグレードアップがISO14001に限りなく近づき、研究会が適合を認めることのできる組織となる。飯田市役所の自己適合宣言は、研究会の目指す取り組みの先駆けとなる実験ともいえます。

チャレンジしなければ はじまらない

設立総会の当日、月刊アイソスが主催する「環境マネジメント大賞」表彰式が行われました。所沢市役所は自治体賞を受賞。地域ぐるみ環境ISO研究会もこれまで多くの賞をいただけてきました。そういう賞も挑戦しなければはじまりません。そして挑戦することで活動を客観的に評価されます。

地域ぐるみ環境ISO研究会とエコ企業ネットとところざわの交流が深まり、互いに刺激しあいながら活発な活動を進める。そして互いの活動が地域の環境文化に貢献していくことを祈念して発表を終えました。

この日を出発点として、交流が広がり、連携した取り組みにつながるものが期待されます。

省エネ住宅・エコライフ推進セミナーのお知らせ

省エネ型の建築物のあり方や環境に配慮した住宅づくりについて学び、これからの住まい方を考え、地球温暖化の防止の活動にも結びつける。そんな目的で表記セミナーが行われます。主催は飯田市環境協議会、共催は省エネ、エコライフ推進セミナー実行委員会、飯田市、地場産業振興センターです。お誘いあつてのご参加、お待ちしております。

伊那谷の環境に適した省エネ住宅を考えるフォーラム

基調講演は神戸芸術工科大学教授、小玉裕一郎さん。テーマは「持続可能な住宅~いかにつくり、いかに住むか」。その後、「快適な住まいづくりと地域経済の活性化を目指して」をテーマにパネルディスカッションが行われます。パネラーとテーマは以下の通り。大蔵実(伊那谷の森で家をつくる会)「地元材を利活用した地域の協業」由本達雄((財)建築環境・省エネルギー機構)「省エネをめぐる国の動きと地方の取り組み」鈴木大隆(北海道立北方建築総合研究所)「公共と住宅産業のコラボレーション」堀内正純(NPO法人外断熱推進会議)「北欧の無暖房住宅とエコライフの取り組み」

とき 3月4日(土)午後2時から
(5時終了予定)

ところ 竜丘公民館大ホール

消費者のための省エネ住宅と 第三者評価を考えるセミナー

(株)ユニバーサルデザイン総合研究所の野瀬善郎さん。テーマは「建て主とつくり手のためのシステムとサポートのあり方」。

とき 3月11日(土)午後2時
(3時30分終了予定)

ところ 地場産業振興センター

参加費は無料です。参加希望者は、「氏名」「住所」「電話」「メールアドレス」「希望講座」を記入の上、fax(0265-24-0962)かメール

kougyou@city.iida.nagano.jpでお申し込みください。問い合わせは飯田市工業課まで(0265-22-5644)

【ご意見 お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局

ic1267@city.iida.nagano.jp



5年間で全事業所が登録 南信州 いむす 21 研修会 飯沼地区で行われました

飯沼地区事業所環境保全対策協議会は、飯沼地区 34 事業所が加入。昭和 51 年に発足し、地域の事業所が共同で環境改善の活動を進めてきました。

今年で設立 30 年を迎える協議会ですが、深刻な地球環境問題の解決に向けて、南信州 いむす 21 に協議会あげて取り組むことになりました。現在 23 の事業所が、環境マネジメントシステムに未着手です。

2月23日(木)、第1回目の学習会が行われました。当日は 12 事業所が参加。

会員企業の中で、すでに ISO14001 を認証取得し取り組みを進めている長野日野自動車飯田支店の田中工場長と、南信州 いむす 21 に取り組んでいる松島産業の宮沢工場長が事例報告。最後に研究会の立場から、南信州 いむす 21 のしくみを紹介する機会をいただきました。

長野日野自動車は県下 7 箇所の事業所すべてで取り組んでいます。ゴミの分別やエコオフィスが活動の柱です。「社員全員の参加と理解が大事です」。田中工場長の話です。サーベイランスや更新審査など、毎年の経費の負担は大変だそうです。

松島産業は 2005 年 10 月 14 日、南信州 いむす 21 に登録。取引先の多くが ISO14001 に取り組んでおり、グリーン調達ガイドラインなどを条件とするようになってきました。ISO14001 は、中小零細企業では経営者の強い理解や熱意がないとなかなか取り組めません。南信州 いむす 21 は、事業所の実情にあわせて、無理をせずに取り組めるしくみ。そんな取り組みに共感して取り組みに至ったそうです。

第2回目の学習会は3月7日(火)に行われます。面での広がりが期待されます。



林藤会長



田中工場長



宮沢工場長

グリーン経済と 環境原則を憲法に盛り込む 企業市民の集い

…日本国民は、恒久の平和と健全で恵み豊かな環境を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想と環境の保全に対する責任を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらと将来世代の安全と生存を保持しようと決意した。…われらは、全世界の国民が、均しく恐怖と欠乏そして環境の破壊から免れ、平和のうちに持続可能な社会に生存する権利とそれを維持する責務を有することを確認する。…

冒頭は日本国憲法の前文の一節です。太字は環境文明 21 が加筆した、改正案です。

日本国憲法の柱は3つ。「国民主権」「平和主義」「基本的人権の尊重」。環境文明 21 は、これまで日本国憲法にうたわれてきた原則を継承し、4つ目の柱「『環境』原則」を加えようと、取り組んでいます。

環境文明 21 代表の加藤三郎さん。環境省の初代地球環境局長を務め、第1回の地球サミットでは日本政府の中心として活躍。

退官後も市民の立場で積極的に地球環境問題の解決に向けた取り組みを進めています。「環境力(ごま書房)」などの著書があります。

2月17日(金)東京都大崎南部労政会館を会場に、環境文明 21 企業会員の集いが行われました。テーマは「グリーン経済」「環境原則を日本国憲法に盛り込むこと」。

すでに環境原則は、EU 憲章や先進国の一部では憲法に加えられています。有限で劣化する地球に生きている私たち人類にとって、地球環境問題の解決はきわめて重要な課題です。国の最高規範にもそういう考え方を盛り込むことで、国や国民の大事な責務としていきたい。そういう思いに基づく取り組みです。

憲法「加筆」

国の最高法規である憲法は、国家が国民に対し、むやみに権力を行使しないための、いましめでもあります。環境破壊の典型は戦争。再び戦火をまみえないための平和主義。日本国憲法本来の意味を大事にしながら環境原則を考える。憲法改正というよりは「憲法加筆」というようにとらえました。

持続可能な社会を支える グリーン経済

「経済と環境が調和し、人間社会がいきいきと躍動する「持続可能な社会」を支える経済。その経済の下では、環境対策のためにとった措置が経済にも、人間が生きる社会にも役に立ち、また逆に経済対策としてとった措置が環境にも良い施策、事業、企業活動、そしてライフスタイルにつながる」。

加藤さんが提唱するグリーン経済の定義です。環境文明 21 では、経済活動全体をグリーン経済という視点でくみかえるために、企業会員などの有志を募り、研究を進めています。その中間まとめとして「グリーン経済を成り立たせるための10の提言案」が報告されました。提言は「食べる」「働く」「買う」「適正な規制と経済的手法」という4つの視点でまとめられています。

食べる、働く、買うことから変える

子どもたちの大好物ラーメンの自給率はわずか 3%。地のものを旬に味わうことは、エネルギーも節約できて環境にも良い取り組みです。また農は食糧を供給する産業というだけでなく、人を育てることのできる仕事です。「食べる」ことから私たちの暮らしをつくりなおしていくことが必要です。

オランダでは夫婦で 1.5 人分の仕事をする、ワークシェアリングという考え方が普及しています。新しい働き方を通して、失業率は減り、経済活動も活発になりました。ボランティアなどの社会参加活動も盛んになり、家族の絆も深まっています。「働き方」を変えることで、社会のグリーン化を進めることができます。

ドイツの地方都市では、中心地の商店が店を続けることができるために、その店でものを買います。輸入される食糧の方が安ければ買う。そういう消費者の姿勢から変えていく。持続可能な地域づくりの視点から「買い方」を変えることも必要です。

グローバルということばを使う人がいます。グローバルな視野を持ちながらローカルに行動する。グリーン経済の取り組みが広がるためには、多くの市民が自分の暮らす地域から行動をはじめることが必要です。

グリーン経済、ぜひ南信州の地から広げていきたい取り組みです。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局

p05300@tanagawa-seiki.co.jp

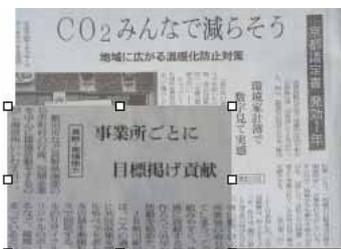
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局

ic1267@city.iida.nagano.jp



朝日新聞全国版で 南信州いむす21が 紹介されました

朝日新聞2月27日号で、「京都議定書」発行1周年を記念した特集が組まれました。京都議定書で日本に与えられたCO2の削減目標は6%。目標を達成するためには、一人ひとりが地域で行動することが必要です。特徴的な地域の取り組みとして、南信州いむす21が取り上げられました。



掲載された記事の抜粋をご紹介します。

…飯田市など長野県南部の15市町村の行政、民間企業を中心に環境活動をするのが「南信州いむす21」。

事業所ごとに「地域美化」「紙ゴミを減らし、電力使用を押しさえる」など、取り組みやすい目標を掲げてもらう。目標をもとに3ヶ月活動を続けた後、審査を受けて登録される。現在、57団体が登録されている。

きっかけは、97年の京都議定書の採択。飯田市と市内の企業が、国際標準化機構(ISO)の定める環境マネジメントシステム「ISO14001」取得のための研究会を設けた。だが、ISO取得には、数百万円の費用がかかる上、実施計画づくりから運用管理、評価など中小企業では難しい。しかも、事業所単独の取り組みで終わってしまう。このため、取り組みやすく、地域全体の環境に貢献する独自の制度を作ろうと、01年から本格的に活動を始めた。

JR飯田駅前の商店街では、ゴミの適正分別を開始。段ボールやペットボトルなどを空き店舗を利用したエコハウスで回収する。ペットボトルのリサイクルで商店街オリジナルのボールペンをつくるなど、環境への意識は高まっているという。

おりしも南信州いむす21、グレードアップに向けた取り組みがまとまってきました。取り組みの広がりや深まりが期待されます。

起業を通じて自己実現を 片岡勝さんの講演会開催

「…伝統技法による『日本刀たたら』製鉄の釜壊しを…見学…。…一時は日本の鉄生産の90%を占めていたという地域の技術で、現在でも、その技術を活かしてジレットひげ剃りの90%を供給している鋼だ。機械で管理してもなかなかできない匠の技だという。…三日三晩燃え続ける砂鉄はケラという鉄塊になっているはずだ。縦横、1メートルかける3メートルほどの砂で固められた釜が壊される瞬間だ。村下(ムラゲ)という伝統技術を受け継いだ60代の男が腕を組み、壊す瞬間を思案している姿は絵になっている。…言葉はないが、緊張感が走る。…今日のために走りこんで鍛えてきた体に無駄はない。贅肉は捨てられている。



…エルメスが話題になった。エルメスが馬具を作り続けていたら今日のエルメスはない。そこからバックに展開し、デザインという付加価値をつけた先人が、今日のエルメスをつくったわけだ。

…地場産業を持っている技術をどう展開し、プロデュースするか…。このプロデュースする力が地元にはなく、東京に一極集中している。…消費者と生産者のコーディネート…。私は各地でそんな組織の必要を感じていた。これをうまくやるにはネットワーク型の運営が求められる。よそ者の目、若者のセンス、馬鹿者の勇気や実験精神が面白さを捻出す条件だ。しかし、縦型の組織原理では、そういう面白がりやははじき出されてしまう。…古い組織を捨て、伝統技術を残し、新しい価値をつくる。…」(Press Alternative 2006,2より抜粋)月刊プレスオルタナティブの巻頭で、市民バンク代表・片岡勝さんは、常に新しい時代をつくるヒントを提案し、実践を続けています。

片岡勝さんの公開講演会「起業を通じて自己実現しよう」が行われます。NPO法人南信州おひさま進歩が主催、おひさま進歩エネルギーと飯田市環境協議会が共催です。

3月19日(日)午前10時から、飯田市公民館にて、参加費は無料です。自己実現の活動が社会貢献にもつながる。夢を形にしたい。そんな思いを持つ方。どなたでも参加できます。お誘いあってご参加ください。詳しくは以下HPをご参照ください

<http://www.ohisama-energy.co.jp/info/060304event.html>

2つのホームページ 「動画で見る100人の村」 「世界の人口」

通信読者の熊谷康司さんと小林敏昭さんからホームページを紹介いただきました。

「もし、現在の人類統計比率をきちんと盛り込んで、全世界を100人の村に縮小するとどうなるでしょう。/その村には…/57人のアジア人 21人のヨーロッパ人 14人の南北アメリカ人 8人のアフリカ人がいます/52人が女性です 48人が男性です/70人が有色人種で 30人が白人 70人がキリスト教以外の人で 30人がキリスト教/89人が異性愛者で 11人が同性愛者/6人が全世界の富の59%を所有し、その6人とともがアメリカ国籍 80人は標準以下の居住環境に住み 70人は文字が読めません/50人は栄養失調に苦しみ 1人が瀕死の状態にあり 1人はいま、生まれようとしています/1人は(そうだった1人)は大学の教育を受け そしてたった1人だけがコンピューターを所有しています」

「私は中野裕己さんファンのひとりでもあるんですが…『世界がもし100人の村だったら』



***ご存じですか?...その動画情報を頂きましたので、是非見てみて下さい。短い動画の中、全てを語れる訳ではありませんが、感動します。絵本も出てます。しあわせ感に素敵な刺激です。今、生きていることの意味、行動することの方向と価値に気付きを与えてくれます。熊谷さんからのメッセージです。HPアドレスは以下の通り。

<http://www.oasisjapan.org/100nin.html>

小林さんから紹介された「世界の人口」では、世界の推計人口が秒単位で刻々と増加しています。

地球環境問題を肌で感じることができそうなページです。リンクも充実しています。HPアドレスは以下の通り。

<http://www.arkot.com/jinkou/>

【ご意見 お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局

ic1267@city.iida.nagano.jp



南信州いむす21の 新たな一歩 事業所代表者会開催

3月14日(火)飯田市公民館を会場に、「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」事業所代表者会が行われました。

主な議題は、「“南信州いむす21”のグレードアップ」「みんなで取り組もう地球温暖化防止アンケート」のまとめ、「“エコドライブ推進月間”に向けた取り組み」です。



ISO14001 南信州宣言を目指して

地域独自の EMS「南信州いむす21」は2001年10月に誕生。2006年3月20日現在、取り組み宣言204事業所(143件)、登録106事業所(57件)にまで広がりました。3年の有効期限を迎えて継続登録を行う事業所、取り組み自身は14001レベルに達している事業所、14001から南信州いむす21に移行した事業所なども生まれています。

事業所の取り組みにあわせて、いくつかの階層に分かれたシステムとする。研究会では10月よりプロジェクト体制を組み、検討を進めてきました。

新しいシステムは、ISO14001規格の要求事項に基づいて初級、中級、上級、ISO14001レベルと4つのクラスに分け、クラスがあがるほどISO14001の要求事項に近づいていきます。

2004年改訂版では、規格の適合を認める方法として、「自己宣言について組織外部の人またはグループによる確認を求める」ことが示されています。南信州いむす21の取り組みが上級を超え、ISO14001の要求事項すべてを満たしたとき、地域ぐるみ環境 ISO 研究会が適合を認める組織となり、「南信州宣言」を行う。飯田市役所の自己適合宣言に続く、新しいチャレンジです。

審査・支援の体制を強化する

今まで登録している「南信州いむす21」は初級段階です。中級、上級、「南信州宣言」と、事業所の取り組みがグレードアップしていけば、支援や審査を行う研究会もグレードアップしていくことが必要となります。中級以上の審査を行うために、グレードによって、内部環境審査員の研修受講や、環境審査員資格者であることなどを審査員の条件としました。実務担当者ではなくても経験を持つ従業員の参加、環境審査員有資格者の拡大なども必要です。飯田市役所で ISO 推進係をはなれた環境審査員の有資格者も、審査の立場で参加することで、活躍の場が広がります。

今回のグレードアップに併せて、南信州いむす21の登録機関、南信州広域連合の役割も変わります。

広域連合との連携も強化

今回のグレードアップに併せて、南信州いむす21の登録機関、南信州広域連合の役割も変わります。



これまで南信州いむす21の取り組みをはじめようとする事業所の窓口は地域ぐるみ環境ISO研究会でした。これからは南信州広域連合が、取り組み宣言、審査申し込みなどの窓口となります。

そして地域ぐるみ環境ISO研究会は南信州いむす21に取り組む事業所の支援や審査を行う機関となります。

5月はエコドライブ推進月間

昨年10月に行われたノーマイカー通勤推進月間。研究会からも1426人が参加。

事業所の立地条件などから、通勤だけでマイカーのCO2削減を行うことは大変。そんな反省から仕事や地域や家庭でもエコドライブを進めよう。エコドライブ推進月間の主旨です。取り組みの進め方については、改めてお知らせします。

事業所ごとに多様な取り組み

参加者から、事業所の取り組みについても報告。ペットボトルの扱い量14万4千トン是全国トップ/アースグリーンマネジメント ノーマイカー通勤の乗り換えに補助/アイエス精工 全社員にマイバックを支給/信南サービス 家庭に広げたCO2削減の取り組みで環境大臣賞など受賞/八十二銀行 研究会として参加している地域活動が更新審査で評価さ

れた/三菱電機 ノーマイカーの取り組みが進んでいる/夏目光学 5Sセミナーを実施/飯田商工会議所 環境のためにも品質に力を入れている/化成工業 9001との整合に取り組んでいる/旭松食品 専門機関と連携し、ISO14001を事業所が取得を支援している/飯田信用金庫 フィルター清掃を受託/トーエネック グリーン調達が発着/多摩川精機 オール電化で脱化石燃料化を促進/中部電力 アスベストの対策室を設置/木下建設 飯田市地域協議会が発足し、環境改善の取り組みが進展中/飯田市役所 ケールという食品を開発し業種を拡大/神稲建設 中国に出向いて最終処分の実際を確認/盟和産業 社員全員で取り組む/南信共同アスコン グループとして2010年までのCO2削減計画を作成/オムロン飯田...

多彩な取り組みや思いの交流。各事業所同士、大いに刺激となりました。

対外的に高い評価



「今年1月、早稲田大学で行われた“自治体環境グランプリ”では基調講演の場を与えられた。研究会の活動も一層外から高く評価されている。地域ぐるみの活動が地域の自律につながるようなアイデアに結びつき、研究会の活動が一層レベルアップすることを期待している。会議冒頭の萩本範文代表の発言です。

「“南信州いむす21”のグレードアップは、研究会の懸案。南信州広域連合と一層の連携を計りながら、“南信州宣言”を行う事業所が生まれることを期待している。研究会の活動の広がりが、南信州の持続可能な地域社会づくりに貢献することを期待している」。牧野光朗飯田市長のまとめの言葉です。

研究会としても大きな飛躍のきっかけとなる会議となりました。

「みんなで取り組もう地球温暖化防止活動アンケート」の結果は、次号で報告します。

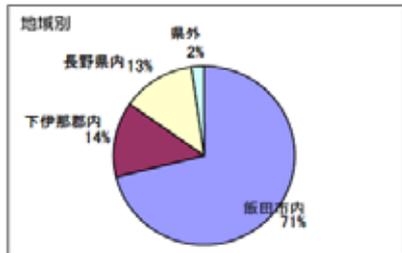
【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
p05300@tanagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



607人が回答 地球温暖化防止活動アンケートから

京都議定書の発効1周年を記念して、「みんなで取り組もう地球温暖化防止活動アンケート」を行いました。昨年12月に行われた研究会実務担当者会で、わかりやすく興味を引くような取り組みにしようという方向付けが行われ、今回の取り組みに至りました。

「地球温暖化防止や京都議定書について、わかりやすく説明する」「CO2削減に向けた何らかの行動につなげる」「インターネットを活用し、紙を使わない取り組みとする」。以上の視点で行ったのが今回のアンケートです。

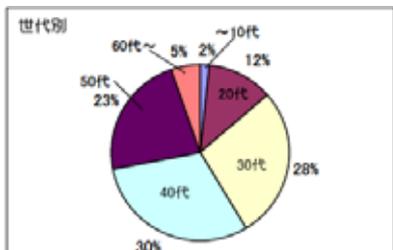


アンケートへの協力依頼はぐるみ通信を通して全国に発信。協力いただいた方は607人。85%が飯田下伊那であることから、多くが研究会参加事業所メンバーであったと思われます。

一方アンケートへの参加は任意。研究会に参加する事業所に働く従業員約7,000にたいして1割弱。八十二銀行、盟和産業、トーエネックでは紙にして社員全員に配布していただきました。インターネットの接続環境、アンケートをインターネットで行うという取り組みにたいする理解など、アンケート方式にたいする課題が見えました。

省資源・省コストのインターネット方式

一方回答者の世代は20代から60代まで広い世代にわたっています。インターネットが世代を越えて普及していることもわかります。



自治体などでよく行われる市民意識調査。インターネットアンケートは集約の方法が簡単です。省資源・省コストの視点から調査書の配布やアンケートの回収を、紙ベースとインターネットを併用することも検討の余地あります。

CO2で166t、ガソリンで72,000Lの節約効果

10問の回答を1年間のCO2の削減量に換算すると、すでに取り組んでいるが208,427t、これから取り組みたいが166,326t。今回のアンケートに協力いただいた方たちが、答えの通り温暖化防止の活動を始めることで、CO2の削減効果につながります。ちなみにガソリンに換算すると72,000L、1L120円とすると864万円。アンケート協力者一人あたり14,200円の家計の節約にもつながります。

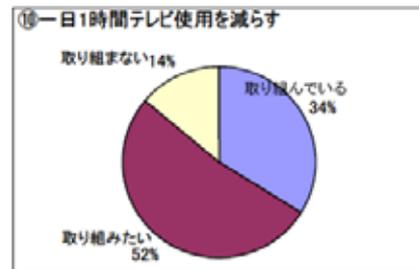
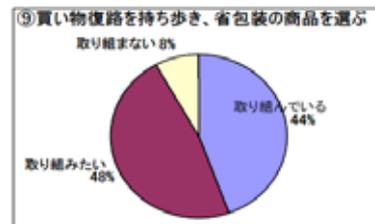
クールビズ・ウォームビズが普及

問1「冷房の温度を1度高く、暖房の温度を1度低くする」では、71%の回答者がすでに取り組んでいます。チームマイナス6%の呼びかけで始まった「クールビズ&ウォームビズ」の呼びかけの成果でしょうか。



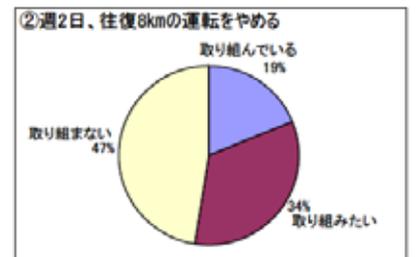
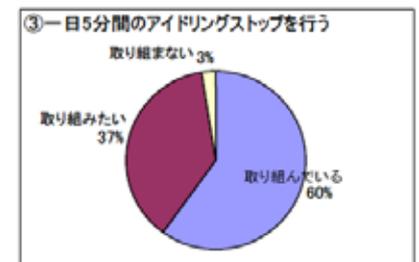
家庭生活への問題提起

これから取り組みたいという答えが多かったのは問4「待機電力を90%削減する」45%、問5「シャワーを一日一分家族全員が減らす」44%、問9「買い物袋を持ち歩き、省包装の商品を選ぶ」48%、問10「1日1時間テレビの使用を減らす」52%。今まで取り組んでいなかった。これならば取り組みそう。家庭で生活への問題提起になったようです。



エコドライブ推進月間に期待

問3「1日5分間のアイドリングストップを行う」では取り組んでいる、取り組みたいをあわせると97%。自家用車利用がCO2削減に大きな影響を持つことは回答者の多くが理解しています。一方問2「週2日、往復8kmやめる」では取り組まないが47%。山間地が多く、公共交通機関が十分整備されていない地域事情が反映しています。



自家用車利用については、5月に行われる、エコドライブ推進月間で、一層の取り組みの強化が期待されます。

来年につなげたい

今回のアンケートに協力いただいた皆さんや、新聞記事を見られた方などが「京都議定書」「温暖化防止」ということばにふれたことで、問題提起につながりました。

来年は今年の反省を活かして一層工夫した取り組みにつなげていきたいと考えています。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。なお、アンケート結果は飯田市環境情報でも公開します。

<http://www.city.iida.nagano.jp/kankyo/index.shtml>

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



4つの起業モデルが誕生 自然エネ省エネ起業講座

3月4、5日18、19日、の4日間、自然エネルギー・省エネルギー起業講座が行われました。主催はNPO法人南信州おひさま進歩です。おひさま進歩エネルギー(有)、飯田市環境協議会共催。WWB/ジャパン、環境エネルギー政策研究所が企画協力。

WWB/ジャパン代表で、国内で数多くの魅力的なコミュニティ・ビジネスの立ち上げや運営支援を行う奥谷京子さんの進行により講座は進められました。北は青森、西は大阪から、事業家、市民活動家、学生、行政職員など30人を超える多彩な参加者です。

社会問題の新しい担い手 コミュニティ・ビジネス

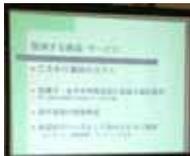
コミュニティ・ビジネスは、仕事を通して社会の様々な問題を解決する、新しい公益の担い手として注目されています。



プレゼン中の講師

ソーラー温水器の販売に様々な環境付加価値をつける「自然生活、自然に帰ろうプロジェクト」。農家のハウスにバイオマスエネルギーを導入する「百万本のバラ・プロジェクト」。「グリーン電力証書を活用した太陽光発電システムの販売」。中心市街地で環境を意識したコミュニティ喫茶を運営する「よりまいカフェKIRAKU」。講座を通して4つのコミュニティ・ビジネスのモデルが生まれました。

前半講座で環境問題や起業のための知識を学び、後半はグループに分かれて具体的なビジネスプランづくり。



パワーポイントによる発表も

宿泊研修の特徴

を活かし、発表に向けて深夜まで話し合いや資料づくりが進められました。中にはパワーポイントのプレゼンテーション資料を作成したグループも。

最終日のグループごとの発表では、参加者それぞれが自分を「投資家」「顧客」「友人」などに置き換えて、発表にたいする意見を交換。講座講師として参加した市民バンク代表の片岡勝さん、環境エネルギー政策研究所長の飯田哲也さんなどからも実践的なアドバイスをいただきました。

環境をビジネスとするために必要な知識を得られたことだけでなく、参加者同士のネットワークを広げる機会ともなりました。

エネルギーこそ地産地消 ISEP飯田哲也さんの講演

飯田哲也さんは原子力の研究、仕事から出発。持続可能なエネルギーの生産と利用を広げていきたいとスウェーデンに移住。1990年代自然エネルギーに大きく転換したヨーロッパ各国の様子を目の当たりにします。



飯田哲也さん

2000年に環境エネルギー政策研究所(ISEP)を設立。北海道や青森などの風力発電、南信州のおひさま共同発電など地域立の自然エネルギーによる発電の取り組みを広げています。またそついう取り組みを応援する市民ファンドのしくみづくりの先駆者です。

日本のエネルギー問題はこれまで、「電力」「ガス」「石油」などエネルギーを供給する産業界の視点で考えられてきました。

これからは、「電力」「熱」「交通」「産業」など、エネルギーの使われ方の視点から、地域や市民の目線でエネルギー問題を考えることが必要です。

そんな視点で飯田さんは、国内各地の自然エネルギーの取り組みに関わっています。

環境ビジネスの可能性

燃焼効率の悪いだるまストーブ(1950年代)から輻射型(1970年代)、燃焼効率が良く薪消費も少ない蓄熱型(2000年代)へと新ストーブも進化。国内市場は未開拓です。

汲み置き、直接利用の太陽熱温水器(1970年代)からソーラーシステムと組み合わせ、給湯や暖房にも活用する統合型ソーラーシステム(2000年代)。景観的にも優れたこのシステムも国内では未開拓。

自然エネルギーに共感する市民から出資を募る市民ファンド。自然エネルギーを選んで購入することを証明するグリーン電力証書など、自然エネルギーを市場化するためのしくみづくりも緒に付いたところ。

環境ビジネスの可能性は、これから大いに広がります。



起業を通して自己実現 片岡勝さんの講演

大手銀行員だった片岡勝さん。労働運動や政治活動を経験し、退職。スウェーデンでの体験。「南の人へのプレゼント」として買う。自分のためではない消費活動「フェアトレード」。欧米や第3世界を歩きながら日本とのギャップを痛感しました。



片岡勝さん

必要だけれども日本にはないものをつくる。第3世界の生産物を正当な価格で取り引きする「第3世界ショップ」。社会に必要なことを仕事とする女性たちを支援する「WWB/ジャパン」。志を担保に融資する「市民バンク」。中核となるそれらの組織から現在は34法人、有給スタッフ150人、年商10億円へ拡大。片岡さんは、起業を通して社会に新しい提案をし続けています。

コミュニティ・ビジネスから世界を変える

「儲けるために仕事をするのではなく、社会に必要なことを仕事とする。マーケットや人にあわせない。自分の仕事の後ろ姿に、儲けも人もついてくる」。時代が今何を必要としているのか、それを知る先見性を持つ。「仲が良いだけではだめ。仲良しグループはいつか仲違いする。中心となる人は常に明確なイニシアティブをもってすすめることが必要。」「高くしても買ってくれる人をどうつくるか。面白いと思って買ってくれる人を選ぶ。客や相手を選ぶ」。片岡さんの経験から生まれた、ビジネス成功の秘訣です。

損益分岐点を下げて成立しない事業はありません。楽しい事業はお金を払ってもやりたい。それがコミュニティ・ビジネスに必要な視点です。

環境の視点から今までの価値観、自分の生き方をすべて塗り替える。そのための自己実現の活動としての起業。起業を通して地域を変え、世界を変えていく。大きな変化は政治ではなく個の変化からはじまります。

起業によって世界を変える。世界を変える一人として自分が存在する。この上ない自分の生きた証の現場です。

今回の講座をきっかけに、南信州から、起業を通じた社会変革のモデルが生まれることが期待されます。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局

ic1267@city.iida.nagano.jp

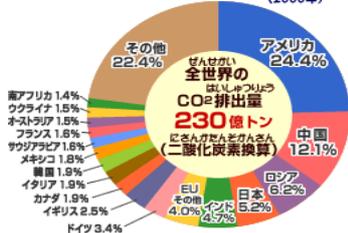


市町村の温暖化対策の現状調査報告会が行われます

1990年を基準年とし、2012年までに6%削減。京都議定書で日本が約束した数値です。しかし2002年現在+11%。目標達成までの道はまだまだ遠い状況です。

日本でも、排出権取引やクリーン開発メカニズムなど、国を超えた温暖化防止に積極的に取り組む企業も増えています。

◆二酸化炭素の国別排出量 [平成12年] (2000年)



しかし何よりも温暖化防止は一人ひとりの足元からの行動が必要です。

県内市町村で温暖化対策についてどのような取り組みが進められているのか。報告会が行われます。全国での取り組み事例なども紹介されています。長野県地球温暖化防止活動推進センターなどの主催です。詳細は以下の通りです。

とき：4月9日(日)午後1時30分～3時30分 / 会場：信州大学教育学部しなの木会館 / 参加費：500円 / 内容：「県内各地の温暖化対策の取り組み調査報告(信州気候フォーラム：平島安人氏)」「全国市町村の取り組みから(環境自治体会議政策研究所 増原直樹氏)」「自由討論」 / 連絡先：信州大学渡辺隆一研究室(026-238-4164)

南ドイツのエコツーリズム報告会が行われます

南信州広域連合が主催、3月7日から14日にかけて「南ドイツの持続可能なツーリズムに学ぶ50年後の南信州を学ぶ旅」が行われました。



このツアーに参加者された方たちによる報告会が行われます。南信州のこれからを考えると、得るものが多い旅だったそうです。

とき：4月12日午前10時～12時
ところ：飯田消費生活センター

“環境のまちづくりとパートナーシップ”環境市民：枚本育生さん講演会のお知らせ

環境市民。環境を大切に思う人が集い、日本で一から創り上げ、活動の幅を広げてきた「日本発」の団体。グリーンコンシューマー活動、環境首都コンテストなど「日本初」の活動に積極的に取り組んでいます。1992年7月に発足。持続可能で豊かな社会・生活を実現するために、地域で実践を進めながら全国にネットワークを広げ、日本の環境活動をリードしています。



環境市民代表の枚本育生さんを迎えた講演会を行います。テーマは「環境のまちづくりとパートナーシップ」。市民主体で事業者や行政と協働して魅力的な環境活動を進める秘訣を伺います。

主催は飯田市環境協議会。詳細は以下の通り。

とき：4月17日(月)午後7時から / ところ：飯田市役所3階大会議室 / 参加費：無料 / 問い合わせ：飯田市環境協議会事務局(市役所環境課内 0265-22-4511内線5246)

浅田姉妹も参加します やまびこマーチ20回記念大会のお知らせ

歩くことを通して心も体も健康に。全国のウォーキング愛好者が集う「やまびこマーチ」。今年で20回を迎えます。



飯田市内を巡る5kmから40kmまでのコース。妻籠宿から出発し、大平宿に宿泊する大平コース。昨年併じた南信濃を散策するオプションコースもあります。天竜舟下りも楽しめます。期日は4月22日(土)～24日(月)。22日朝の出発式には、フィギアスケートの浅田舞、真央姉妹が参加します。

ご家族やお友だちと、飯田の春の風景を楽しみながら歩いてみませんか。主催は飯田やまびこマーチ実行委員会(飯田市教育委員会スポーツ課内)

詳細は以下HPまで
<http://www.city.iida.nagano.jp/sports/yamabiko/index.htm>

飛んでいるギフチョウを見る会に参加しませんか

黒・黄・赤の美しい模様。花びらのように舞う可憐な姿。氷河期から生息しているといわれる日本固有の種、ギフチョウ。飯田市の天然記念物でもあります。



ギフチョウ保護の活動は、竜丘公民館に集う有志の取り組みから出発。地域全体の取り組みとして広がり、飯田市の天然記念物に指定されました。飯田市の環境保護活動の草分けでもあります。

恒例の飛んでいるギフチョウを見る会が行われます。飯田昆虫友の会主催、飯田市教育委員会、竜丘公民館後援。研究会メンバー、オムロン飯田協力。詳細は以下の通りです。

とき：4月15日(土)(雨天の場合は翌16日)午前9時30分集合(午後2時頃まで)

/ 集合場所：オムロン飯田工場下駐車場(飯田市桐林) / 参加費：500円(高校生以下無料)

お弁当など持参、ハイキングのできる支度で。参加者には記念写真と、抽選でギフチョウマークのついたTシャツがあたります。

ご家族・友人と春の薫りを楽しみませんか。

連絡先松下さん(0265-52-1638)

平成19年度にスタートする飯田市の第5次基本構想づくりに向けて昨年10月、市民検討会議が発足しました。構想づくりの中心は市民検討会議。市民41人、職員26人で構成。これまで12回の市民検討会議が行われ、庁内各課との調整を進めながら、基本政策と施策がたいたい研削になってきました。

構想づくりの一番の特徴は、政策の進行管理にまで策定委員が関わる徹底的な市民参加です。「人の営みと自然が調和したまちづくり」。環境分野も大きな柱です。高校生や大学生という若い力の参加も特徴です。

各地区ごとに進められる土地利用計画。全国でもめずらしい議会発議の自治基本条例の取り組み。地域自治組織づくりなど、市民主体の取り組みが同時に進んでいます。

これからの飯田のまちづくりの核となるこれらの取り組みが一斉に平成19年度にスタートします。

「環境首都」をめざす飯田市にとっても意義ある取り組みです。

【ご意見 お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



挑戦！南信州宣言 研究会実務者会から



4月14日(金)、地域ぐるみ環境ISO研究会実務者会が行われました。中心テーマは、南信州いいむす21のグレードアップ。研究会のプロジェクトチームが作成した新しいしくみは、3月14日(火)に行われた研究会代表者会で承認されました。今回の実務者会では、代表者会の決定を受け、新しいしくみをこれから広げていくために必要な実務について話し合いました。

新システムの説明会を行います

南信州いいむす21は現在取り組み宣言106件、登録件数58件。すでに運用している事業所や登録に向けて準備中の事業所、EMSに関心を持っている事業所などにたいする新システムの説明会を行うことになりました。

5月中旬、プロジェクトメンバーを講師とし、何回かに分けて実施します。

グレードアッププロジェクトはまず、ISO14001規格の要求事項をできるだけ平易な言葉で読み替えて整理。あわせて初級、中級、上級3つのステージを設け、ステージがあがるごとに満たすべき要求事項を定めています。

現在の南信州いいむす21は、グレードアップ版の初級に相当。実際に新システム上の中級、上級に値する活動を進めている事業所もあることから、そのまま中級、上級に移行する事業所も生まれそうです。

移行の時期は現在の登録証の有効期限が満了した場合や、事業所が新システムへの移行を希望したときです。

南信州宣言の誕生を

ISO14001規格、2004年改訂版で、14001規格の適合を認める方法の一つに、「自己宣言について組織外部の人又はグループによる確認を求める」という表現があります。

という表現があります。

南信州いいむす21を超えてISO14001に挑戦しようという事業所が現れたとき、地域ぐるみ環境ISO研究会は、この「組織外部のグループ」として、ISO14001の適合を認める組織となります。

2003年1月23日、飯田市役所は日本の自治体としてははじめて「自己適合宣言」を行いました。この自己宣言に続いて地域の認める自己宣言を、「南信州宣言」と名付けます。南信州の多くの事業所が「南信州宣言」に挑戦することを期待しています。

研究会の力量を高める

南信州いいむす21のグレードアップによって、支援・審査を行う研究会メンバーの力量も試されます。



新しいシステムでは、ステージごとに支援・審査を行うための研究会メンバーの条件を定めました。中級審査の条件は事業所内での内部監査の経験者。上級審査の条件は、内部環境審査員養成のための、外部養成機関の研修受講者。そしてISO14001南信州宣言審査の条件は、環境審査員補の有資格者。

これらの資格や経験を積み重ねるために、研究会主催、環境監査員のレベルアップ講習会なども予定しています。

環境審査員補の有資格者は、現在研究会内部で4人。事業所内部で新たな有資格者の養成も期待されます。

有償のしくみに

費用と、システム作りに費やす労力という高いハードル。南信州いいむす21は、ISO14001をはじめとした環境マネジメントシステムに取り組むためのハードルを低くし、多くの事業所が取り組みやすいしくみとするために、無償を原則としていました。

今回の改正から、登録のための費用を設けることになりました。有償とする理由は、2つ。南信州いいむす21に取り組む事業所の決意、そして審査する側である研究会の責任、それぞれを担保することです。

費用については詰めの段階ですが、審査をするメンバーの実費弁償とい

う考えではありません。メンバー自身はあくまでボランティア。登録料も数千円から数万円までの範囲と考えています。

意向調査を行います

5月に行う説明会を受けて、すでに南信州いいむす21登録済みの事業所にたいしては、新システムにたいしてどのように対応するか、意向調査を行います。

南信州いいむす21、そしてISO14001南信州宣言。国内でも例を見ない新しい試み。南信州ブランドとしてその価値が認められるためには、多くの事業所の参加と広がりが求められます。

31事業所が更新時期に

2003年6月、31事業所にたいして登録証が交付されました。それらの事業所が一斉に更新審査を迎えます。

研究会では30事業所を12のチームに編成し、継続登録のための審査を行います。審査は新しいシステムの説明会後に行います。

環境側面と法規制

事業所でEMSを進めるとき、一番基本となるのは環境側面の抽出・評価と環境法規制の把握です。実務担当者は自社では常に、効果的で漏れのないシステム作りに腐心しています。今回の実務者会では、各事業所の取り組みの実際についても交流しました。



3月に行われた研究会代表者会、そして今月の実務者会、地域ぐるみ環境ISO研究会のこれまでの歩みの中でも意義深い節目となりそうです。事業所としての私益を超え、南信州の地に新しい環境文化を創造する。研究会はそのためのボランティアで公益的な組織。この活動が広がるのが逆に事業所としての私益に結びつく。「環境と経済の好循環」を実感した実務者会でした。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



エコドライブ推進月間が始まります

5月はエコドライブ推進月間です。昨年10月に実施した「ノーマイカー通勤推進月間」。仕事中や家庭など、通勤以外にも広げて取り組みます。

自家用車通勤以外の人も対象。4月20日現在、参加事業所94、参加者は7,378人。昨年の取り組みに対し参加事業所数で247%(38事業所)、参加者数で488%(1,511人)の増。取り組みは大きく広がっています。

エコドライブカレンダーでセルフチェック

参加者には事業所を通してエコドライブカレンダーが配られます。ポケットサイズのカレンダー。財布や免許証などといっしょに携帯し、毎日の記録でセルフチェックします。



毎日カレンダーに「A」「B」「C」「D」の記号を記入します。

「A」は通勤や買い物でノーマイカーに組み込んだ場合。徒歩や自転車、公共交通機関の利用。バイク・軽自動車への乗り換え、パークアンドライドなどが該当します。

「B」は通勤時間中も含めて、一日5分間以上のアイドリングストップを行った場合。信号待ちや荷物の積み卸しなどの際に取り組みます。

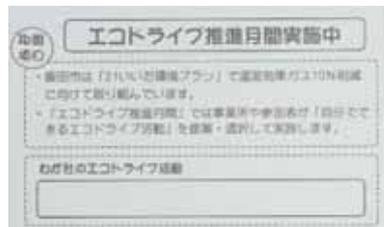
「C」は急発進や急加速を行わない場合。

「D」はその他の私が行うエコドライブ。「タイヤの空気圧を適切に」「車間距離は余裕を持って」「エンジンプレーキを積極的に使う」「暖機運転は適切に」「計画的なドライブを」など、一人ひとりのエコドライブのアイデアを記入し取り組みます。



わが社のエコドライブ活動

エコドライブ月間をきっかけに、事業所としてのエコドライブにもぜひ取り組んでみませんか。



「 km 以内の移動は徒歩や自転車」「出張は公共機関を利用する」「事業所間の移動には社有車で定期便に乗り合わせる」など、事業所ごとに創意工夫した取り組みが行われることを期待しています。

ステッカーを社有車に

「エコドライブ推進月間」実施中のステッカー、社有車などに貼り付けます。ステッカーを貼った車がいたる所に走ることで、多くの人たちに取り組みを広げることがねらっています。ステッカーを貼ることで、運転者もエコドライブに気を配ります。



ポスターは事業所内で、多くの社員の皆さんやお客さんが目にする場所に張ってください。

6月中旬に公表します

取り組みの成果は、6月中旬にぐるみ通信で報告します。

1995年から2002年、南極では4,850k m²の氷塊が崩壊。千葉県の面積に相当。日本でもソメイヨシノの開花がこの50年で5日間早まる。地球温暖化は私たち人類が生存するために様々なマイナスの影響を与えます。地球温暖化の原因である地球温暖化ガス。その大部分を占めるCO₂。国内で運輸部門から排出されるCO₂は259百万t。総排出量1,098百万tの23.58%に達します。

交通対策は温暖化防止の大きな鍵となります。一人ひとりの積極的な取り組みが期待されます。

新たな競争力の源泉「環境経営」～シチズン平和時計が「進取創造」で紹介

「...腕時計はムーブメントと呼ばれる駆動部により時を刻みます。このムーブメントの生産のために、新たに『マイクロ組立ライン』を導入。従来のラインより



長さで1/10、エネルギーは1/6の節減となります。このラインで、電池ではなく光エネルギーを利用して駆動する『エコドライブムーブメント』も生産しています。環境配慮型設備で、環境配慮型製品を作る。環境改善活動の柱です...」。

社団法人長野県経営者協会の機関誌「進取創造」で、シチズン平和時計株式会社の活動が紹介されました。シリーズ「新たな競争力の原点『環境経営』」というコーナーです。

地域ぐるみ環境 ISO 研究会の活動も紹介されました。研究会発足から現在までの経過。南信州 いむす21の取り組み。会社にとって大事な地域貢献活動として位置づけられています。

研究会への参加が事業所への信頼を高め、事業所の積極的な参加が研究会の活動を広げる。そんな積み重ねから、研究会の取り組みが社会的に認められていく。「地域の自然を残し、持続可能な地域づくりのため、新しい環境文化を創造する」。そんな地域づくりに向けて、一層活動の味が試されます。

南信州 いむす21、グレードアップにむけた、実務の詰めを進めています。これまで取り組んできた事業所へのしきみの説明や意向調査。新たに取り組もうという事業所にたいするPR。システム移行に伴う関係書式や登録証などの更新。予想以上に臆大な準備が必要です。プロジェクトチームを中心に検討は進められています。とはいえ、今回のグレードアップの成否は、何よりも多くの事業所の皆さんの理解と参加にあります。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



新 南信州いむす 21 いよいよスタートです

3月14日(火)
に行われた地域
ぐるみ環境ISO
研究会事業代
表者会で、南信
州いむす 21



南信州いむす
シンボルマーク

の新しいしくみが承認されました。
その後実務者会やプロジェクトの話
し合い、南信州広域連合との調整を
経て、ようやく新しいしくみが固ま
りました。

つきましては以下の日程で説明会
を開催します。南信州広域連合と地
域ぐるみ環境 ISO 研究会の共催で
す。

多くの皆様の参加をお待ちしてい
ます。

- くましろホール(高森町下市田)
5月16日(火)午後2時
(4時終了予定)
飯田市役所3階大会議室
5月18日(木)午後2時
(4時終了予定)
オムロン飯田第2工場
(飯田市桐林)
5月20日(土)午前10時
(12時終了予定)

「登録証を交付されている事業所」
「取組宣言を行っている事業所」の皆
さんは、ぜひご参加ください。説明
会はどなたでも参加できます。「南
信州いむす 21」に関心のある事業所」
の皆さんもぜひご参加ください。

当日は新しい南信州いむす 21
に取り組む手続き、新しいシステム
の内容について説明します。

取組み宣言中の事業所 は、新たな宣言が必要です

すでに南信州いむす 21 の登録
証を受けている事業所は、有効期限
が満了するまで、現在の登録が有効
です。継続登録の時点で、新しいシ
ステムに移行します。

現在取組み宣言中の事業所は、
改めて新しい南信州いむす 21 の
取組み宣言を行うことが必要です。

現在の南信州いむす 21 は、新
しいシステムの初級に相当しますが、
中級や上級に取り組むこともできま
す。

ISO14001 南信州宣言 に挑戦しませんか

新システムは、ISO14001 の要求
事項を参考につくられています。初
級、中級、上級とランクアップして
いくほど、ISO14001 に近づいてい
きます。

「自己宣言について組織外部の人又
はグループによる確認を求める」こ
とが、2004年改訂版では、14001規格の
適合を認める方法の一つとされまし
た。地域ぐるみ環境ISO14001研究会
はここでいうグループとなり、組織の
自己宣言を支援します。

この自己宣言を「南信州宣言」とい
う言葉で表します。ISO14001の取り
組みとしても例を見ないものです。南
信州いむす21からのグレードア
ップ、外部審査機関による認証からの移
行など。ぜひ南信州宣言に挑戦してみ
ませんか。

説明会や新しいしくみの詳細につ
いては、以下 HP をご参照ください。
[http://www.city.iida.nagano.jp/kan
kyo/iso/index.html](http://www.city.iida.nagano.jp/kankyosho/iso/index.html)

58 番目の登録 飯田工業株式会社

4月14日(金)飯田工業株式会社が
牧野光朗南信州広域連合長より、南
信州いむす 21 の登録証を受け取
りました。



空調設備を中心とした配管工事を
業務とする同社は、昨年4月に取
組み宣言。資源・資材の節約や、環
境に配慮したエコ商品の販売・施工
などに取り組んでいます。

「活動がますます充実し、各家庭や
企業に取り組みが広がっていくよう
お願いしたい」牧野連合長からあい
さつ。同社社長の松井岩根氏は「地球
全体の環境改善に少しでも役に立つ
よう、これからも続けていきたい」と
抱負を語りました。

登録証は移行前のシステムとして
交付。58番目の登録となります。

品質でも高い評価 (株)アース・グリーン・マネジメントが 紹介されました

「プロが立ち上
げた会社ではなく
て、すべて見よう
見まねではじめた
ので、最初はなか
なか引き取り手が
ありませんでした。
...試作品を手にし



ての熱心なセールスと、お客様の厳
しくも暖かい助言が飛躍のバネにな
りました。品質を上げるために、選
別の人数を多くして、異物の除去に
全力をあげました。お客様に安心し
て使っていただける製品を納めるま
でに2年かかりました。そして、安
定した品質をキープし続けることで、
大きな信頼をつかみました。『再生
ペレットなんかで長繊維が曳ける
か!』と言っていた大手繊維メーカ
ーも、『来年もお願いしたい』と取引
継続の依頼が来るようになりました。
...」。

PET ボトルリサイクル推進協議
会が発行する広報誌「RING」3月号
で、研究会参加事業所、株式会社ア
ースグリーンマネジメントの活動が
紹介されました。

冒頭は同社常務の平栗秀信氏のこ
とばです。同社は1999年に飯田市
桐林の「環境産業公園」で創業。ペ
ットボトルをペレットやフレークに加
工して出荷。ペレットは繊維、フレ
ークはシートや成型品の原料となり
ます。年間処理能力6,000tは業界ト
ップクラスです。

記事冒頭でまず、南信州いむす
21についても紹介いただきました。
地域ぐるみでの環境改善の活動を大
事な取り組みとして位置づけていた
だいています。

事業所の活動の向上が研究会の活動の広
がりにも結びつく。WIN&WINの関係。南
信州いむす21の新たなチャレンジも、そ
のような視点に基づいて取組まれ、広が
っていくことを祈念します。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp